

植物ゲノム・遺伝子源解析センター 月例セミナー

とき 平成28年5月20日(金) 16時~17時

ところ 農学部 DS304講義室

題目 「植物保護剤による環境ストレス耐性補強」

講師 農学部教授 藤田 政之 博士

概略

世界人口の増加、温暖化等による環境の悪化を考慮すると、食料生産の規模の安定的維持のみならず増大が、今後の農業に課せられた大きな課題といえるであろう。また、施設園芸等の、自然環境から切り離され、人工的に管理された条件下における、高効率な栽培育成は、都市人口の食生活を満たす重要な生産ツールとして、今後とも重要視されていくであろう。

植物は常に環境から、何らかのストレスを受けており、それらは植物の成長の大きな抑制因子になったり、農作物の品質低下の原因となっている。これらのストレスは、圃場だけにかぎらず、ポストハーベストにおける収穫物の輸送・貯蔵の段階でも起こっており、商品価値の低下、ロスに密接に関わっている。

本セミナーにおいては、環境ストレスにより植物において誘発される酸化ダメージ、並びに、植物保護剤の外部投与によるストレス耐性補強および、ダメージの軽減について、当研究室で得られた研究結果をもとに紹介する。

参考文献：

1. Abiotic Stress. In: (Ed. by Kourosch Vahdati): Extreme temperature responses, oxidative stress and antioxidant defense in plants, 169-205, 2013, INTECH, Rijeka, Croatia.
2. Physiological and biochemical mechanisms associated with trehalose-induced copper stress tolerance in rice, *Scientific Reports* DOI:10.1038/srep11433, 2015.
3. Hydrogen sulfide modulates cadmium-induced physiological and biochemical responses to alleviate cadmium toxicity in rice, *Scientific Reports* DOI:10.1038/srep14078, 2015.

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター
(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)